

構成団体における活動状況について（平成28年度）

1. 「防災知識の普及啓発」や「安全への備えの促進」に係る取組事例

団体名	取組事項	取組内容
愛知県防災局	<ul style="list-style-type: none"> ①啓発パンフレットの作成・配布 ②地震体験車等防災啓発資機材の貸出 ③出前講座の実施 ④防災ボランティアコーディネーター養成講座の開催 ⑤家具等転倒防止対策推進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ①・あいち防災通信(号外)の作成。【28年12月】 ・防災啓発パンフレットの配布。【随時】 ②地震の揺れを体験できる地震体験車等防災啓発資機材を市町村等へ貸出。【随時】 ③希望団体に対して出前講座を実施。【随時】 ④ボランティアと被災地住民との調整役となる防災ボランティアコーディネーターのフォローアップ講座・レベルアップ講座を開催。【28年12月～29年2月】 ⑤家具固定に関する相談窓口を防災局内に設置し、県民からの相談に応じる他、自主防災会等に対し、家具固定推進員を派遣し、家具固定の推進を図る。【随時】 ・派遣対象: 自主防災会等 ・派遣期間: 平成28年3月14日(月)から平成29年2月20日(月)まで ・派遣要請: 134回 派遣実績: 91回 ※平成28年10月21日現在
愛知県教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ①「高校生防災セミナー」の開催 ②防災教育基礎研修会の開催 ③防災教育指導者研修会の開催 ④実践的安全教育総合支援事業 ⑤防災パンフレットのWebページへの掲載 ⑥防災教育マニュアルの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ①名古屋大学と連携して、高校生を対象に、自然災害に対する知識や技術を持ち、学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーを育成するためのセミナーを開催する。【平成28年7月、8月、12月】 ②県立学校採用2年目の教員を対象に、防災意識の啓発を行い、防災教育の実践的な取組を推進するために研修会を実施する。【平成28年8月】 ③小・中・高・特別支援学校の防災教育担当者を対象として、児童生徒に対する防災教育及び家庭、地域や行政と連携した防災管理をさらに充実させることをねらいとした研修会を開催する。【平成28年10月】 ④特別支援学校に、順次、緊急地震速報受信システムを整備し、避難訓練の実施を通して活用の在り方を検証する。愛西市をモデル地区とし、専門家の指導助言を得ながら、防災教育の充実を図る。【平成27年6月～】 ⑤平成25年2月に発行した小学校低学年用・高学年用、中学校用、高等学校用それぞれの地震防災パンフレットを、Webページに掲載している。【通年(平成25年2月～)】 ⑥学校における防災教育をより効果的・実践的なものにするため、「あいちの防災教育マニュアル」を作成する。【平成28～29年度】
名古屋市防災危機管理局	<ul style="list-style-type: none"> ①家具の固定ができるボランティアの養成及び派遣 ②市民向け報告会の実施 名古屋市地域強靱化計画の策定 ③名古屋市地域強靱化計画の策定 ④避難所への発電機・投光器の整備 ⑤ポスター「歴史災害から見る名古屋」の作製・掲示 ⑥名古屋大学と連携した防災・減災施策の推進 ⑦帰宅困難者対策の推進 ⑧「防災タウンページ」の発行・配付 ⑨自助力向上の促進事業 	<ul style="list-style-type: none"> ①家具固定が自らできない市民に対する支援のため、地域に家具の固定ができるボランティアの養成及び派遣の実施【27年10月】(消防局) ②被災地へ派遣されていた職員による「現地での経験を踏まえた震災の教訓」を伝えるための市民向け報告会を実施【随時】(防災危機管理局) ③国土強靱化基本法に基づき、地震災害を想定した「名古屋市地域強靱化計画」の策定。(10月29日公表予定)。引き続き、年度内を目途に風水害等を想定した名古屋市地域強靱化計画の策定を検討中【通年】(防災危機管理局) ④避難所となる市立小中学校に非常用発電機等の電源設備の整備を実施【27年度中】(防災危機管理局) ⑤歴史災害記録調査から得られた主な災害の被害状況に関する記述や写真、逸話、地名に関する言い伝えなどを紹介し、関係場所を地図上に図示したポスター「歴史災害から見る名古屋」を作製し、区役所、市内小中高等学校などで掲示し、市民の防災意識を高揚【27年10月】(防災危機管理局) ⑥防災に関する専門的知見や最新の情報を有する名古屋大学との連携による、防災人材の育成手法についての共同研究及産官学との多様なネットワーク構築のために本市職員を研究員として派遣【通年】(防災危機管理局) ⑦大規模災害時に発生が予想される帰宅困難者に対して、一斉帰宅の抑制や情報提供などの対策を、名古屋駅周辺地区都市再生安全確保計画の検討・作成結果をふまえ推進【通年】(防災危機管理局) ⑧NTTタウンページ株式会社と協働し、別冊「防災タウンページ」を発行し、市内全世帯及び事業所に配付【27年8月】(防災危機管理局) ⑨町内会の集まりや地域のイベント等に消防職員が出向き、家具の固定や食料品の備蓄など、家庭でできる震災対策について啓発をする「出張!家庭の防災教室」を開催【通年】(消防局)
名古屋市教育委員会	<ul style="list-style-type: none"> ②東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 公開講座「男女ともに大切にされる防災を目指して～熊本地震から見てきたもの～」をイーブルなごやで開催 ③推進テーマ以外の取組事項 ・なごやっ子防災ノートの 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災を通じて、女性を取り巻く現代的課題における現状、課題について学ぶ。【10月22日】 ・児童生徒の防災に対する意識を高め、地域の危険箇所や避難所等を把握させるなど、家庭とも連携した防災教育を推進するため、「なごやっ子防災ノート」を作成し、児童生徒に配付。【毎年度】※名古屋市立学校の小1、小4、中1の児童生徒に配付

	<p>配付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の防災意識を高める講座・事業の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の防災意識の高揚を図るため、各区の生涯学習センターにおいて、区の実情を踏まえ防災に関する講座・事業を実施【毎年度】
(一社)中部経済連合会	東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項	<ul style="list-style-type: none"> ・防災特別委員会や企業防災連絡会の開催による会員企業の防災・減災対策促進意識の啓発【平成29年2月(予定)】
愛知県商工会議所連合会(名古屋商工会議所)	<p>① 家具や書庫等の転倒防止に係る取組事項</p> <p>② 東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項</p> <p>③ 推進テーマ以外の取組事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・所内に置いては消防法に基づく一定以上の高さの什器はビルに図面にマッピングするとともに固定を実施している。会員企業への周知・啓発については所内チラシ用ラックに時期に応じた啓発パンフレットを設置することで対応している。 ・防災施設視察会を3回開催(名古屋港、名古屋大学減災館) http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1604150005 http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1610050002 http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1609090001 ・ホームページに「災害対策」のコンテンツを掲載。中小企業庁の中小企業BCP策定運用指針を紹介しているほか、防災グッズの取次販売を行っている。
(公社)日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会	<p>① 防災意識向上に向けた情報発信</p> <p>② フェスティバル開催</p> <p>③ 災害支援ネットワークの構築</p>	<p>① 愛知県内33青年会議所会員の防災意識向上のため、災害に対する教材を定期的に発信【平成29年1月～12月(予定)】</p> <p>② 被災地への支援を思い続けることを目的として、楽曲「未来へつなぐメッセージ」を基にフェスティバルを開催【平成28年9月10日】</p> <p>③ 愛知県内33青年会議所とLINEでの災害支援ネットワークを構築【29年1月1日～29年12月31日摘要】</p>
愛知県商店街振興組合連合会	① 貴協議会から受領したチラシ等を会員に配布	① 貴協議会から受領したチラシ等を当連合会会員向け情報紙に同封し配布。【随時】
愛知県農業協同組合中央会	<p>① 災害対策訓練の実施</p> <p>② 防災訓練の調査</p>	<p>① 会員26団体に対し、抜き打ちで災害対策本部の運営に必要な事項が整理、準備できているかを確認する訓練を実施した。【28年9月】</p> <p>② 会員26団体に対し、各団体独自で取り組んでいる防災訓練について調査し、その内容や課題を共有し、各団体の防災力向上を促す。 【29年2月調査結果報告予定】</p>
(公社)愛知建築士会	<p>① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項</p> <p>③ 推進テーマ以外の取組事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「家具や書庫等の転倒防止対策」のチラシを役員会で配布した。会員への周知とともにユーザーへの周知を依頼した。【6月】 ① 地域貢献活動【年度中】 <ul style="list-style-type: none"> ・建築士が、地域の市民へ減災・防災・耐震改修等の情報を提供するため、親子で楽しみながら防災を考えるワークショップや、耐震改修の相談会、勉強会を開催。 ・(公社)愛知建築士会会員により、小学生を対象に、身近な紙を使った体感実験を通して、耐震の重要性を知ってもらう意識啓発活動を実施。過去の災害の歴史を学び、防災・減災意識を高めるための講演会や住まいの相談会を開催。 ② 防災セミナーの開催【10月】 <ul style="list-style-type: none"> ・(公社)愛知建築士会と中部経済新聞社の共催で毎年10月に建築総合展を開催し、耐震コーナーにおいて、耐震・免震・制震工法、耐震シェルターなどを紹介、防災、減災に関するセミナー・講習会等も多数開催。
瀬戸防火防災協会連合会	<p>① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項</p> <p>② 東日本大震災を踏まえた取組事項</p> <p>③ 推進テーマ以外の取組事項</p>	<p>① ・市庁舎内で、リーフレットの配布を行う。【通年】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなの生活展(イベント)において、家具等の転倒防止に関する啓発パネルの展示、家具など固定器具等の展示、木造家屋の無料耐震診断と耐震補強工事費補助事業に関するPR及びリーフレットの配布を行う。また、来場者に「耐震エコパット」を配布した。【平成28年10月8日】 <p>② ・新郷さくら祭(イベント)にて愛知県の起震車を運行し、参加者に東日本大震災相当の揺れを体感してもらい、事前防災の重要性を啓発。【平成28年4月2日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山口もーやっこ祭(イベント)にて愛知県の起震車を運行し、参加者に東日本大震災相当の揺れを体感してもらい、事前防災の重要性を啓発。【平成28年8月6日】 ・各自主防災会で地域防災訓練を実施【年間を通じ随時】 <p>③ ・市内の街頭消火器を設置、および既設街頭消火器約1,800基の一斉点検を実施。【毎年2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災に取り組む施設等を訪問する視察研修を実施。【平成28年11月25日】 ・地震に関する防災講演会を実施 講師:陸前高田市語り部 演題:「災害から命を守るには一陸前高田市の巨大津波災害経験から」【平成28年12月10日】
あま市自主防災会	<p>① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項</p> <p>③ 推進テーマ以外の取組事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会情報交換会 ・防災カレッジの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会の自主防災訓練において、防災ボランティア団体である「あま市防災ネット」による家具転倒防止についての啓発。【年間を通して随時】 ・市内42の自主防災会を一同に集めて、自主防災会の活動について学んでもらうとともに、他の団体と交流を深め、防災知識の習熟を図る情報交換会を実施。【平成28年5月】 ・地域の自主防災活動で活躍していただく防災リーダーを養成する防災カレッジ(防災リーダー養成講座)を開催。12月には防災リーダーを対象としたレベルアップ講座を開催予定。【5月・6月・12月】

大府市自主防災会	①推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ③推進テーマ以外の取組事項	① 防災訓練実施時、訓練参加者を対象に市の出前講座を実施し、家具転倒防止等について啓発。【年間を通じ随時】 ③各自主防災会で防災訓練を実施。【年間を通じ随時】
安城市自主防災組織連絡協議会	①推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ③推進テーマ以外の取組事項	① 家具転倒防止講習会 NPO団体に講師派遣を依頼し、各地域で家具転倒防止の普及員を育成することを目的として実施中。【平成24年度～継続中】 ③ ・視察研修 先進地の取り組みについて学び、地域の防災活動に活かすことを目的として実施。【毎年】 ・自主防災リーダー養成研修 地域の防災訓練の指導者を育成することを目的として実施。【毎年(年4回の研修)】
豊川市自主防災会連絡協議会(豊川市)	① 豊川市家具転倒防止器具取付事業 ② 豊川市総合防災訓練 ③ 防災リーダー養成講座 ④ 防災リーダーフォローアップ研修 ⑤ 防災ボランティアコーディネーターフォローアップ研修 ⑥ 防災啓発パンフレット	① 家具転倒防止器具の取付作業を無料で行う。(取付器具費は本人負担)自主防災会全体研修会、町内会回覧(組回覧)、地域の防災訓練、講話等での周知。【平成28年5月～】 ② 想定を「南海トラフ地震」とし、自主防災会、ボランティア、防災関係機関などの、相互連携とさらなる強化を目的とした訓練を行った。【平成28年9月】 ③ 地区の防災のリーダーとなる方を育成する講座を実施。【平成28年6月】 ④ とよかわ防災リーダー、あいち防災リーダー養成講座修了者を対象にフォローアップ研修を実施。【平成28年11月】【平成29年1月】 ⑤ ボランティアと被災地住民との調整役となる防災ボランティアコーディネーター養成講座修了者を対象にフォローアップ研修を実施。【平成28年7月】【平成28年9月】 ⑥ 各自主防災会、各団体等が実施する防災訓練・講話等の実施時に防災意識の高揚を目的に配布している。(作成 10,000部)【毎年度】
愛知県小中学校長会	①推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ・推進テーマや実践事例等を学校通信等へ掲載 ②東日本大震災を踏まえた取組事項 ・避難訓練の実施 ・緊急下校の実施 ・研修の実施 ③推進テーマ以外の取組事項 ・全校集会、学年集会や学級指導の実施 ・市民、県民運動への参加 ・校長会独自の調査研究活動	・防災意識の高揚を図るために、学校通信や学年便り・学校ホームページ等に掲載【状況に応じて随時】 ・地震の想定被害を考慮して、児童生徒の安全確保のために実施。地域の実情に合わせ津波も想定。体育館で宿泊体験も一部実施。 ・地区主催の防災訓練に、児童生徒が積極的に参加。【年間4回程度】 ・保護者への引渡し、PTAや地域の協力を得て実施。【状況に応じて随時】 ・防災に関する校内研修等を実施。【年間1～2回】 ・防災意識や安全意識の高揚を図るために、随時実施。警察官による講話、交通安全教室等 ・地区の防犯パトロール隊との連携 ・PTAと連携し校外補導を実施【必要により随時】 ・交通安全パレード、街頭活動(啓発チラシの配布)等【随時】 ・平成26年度、県校長会の教育課題特別委員会で「学校における防災体制の整備・充実に関する研究」の冊子を刊行した。また、福祉安全委員会で「防災教育の充実」について調査研究を実施。【年間】
愛知県公立高等学校長会	①推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ②東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 ③推進テーマ以外の取組事項	① 転倒の危険がある書庫、ロッカー等の確認、図書室や職員室、教科準備室等については、日常的に点検を実施し、適切に対処している。【約2ヶ月ごと(年間5～6回)に安全点検において実施】 ② 各学校において、防災教育、ホームルーム活動等の場面で、学校と地域、家庭との連携を図って防災、減災への取り組みを行っている。【各校の年間計画により、防災訓練等を実施】 ③ ・各学校で災害に備えて非常食の備蓄を実施している。【年度当初】 ・地元市町村と連携し、災害発生時の対応、減災への取り組み、市町村の防災訓練への参加を実施している。【通年】 ・地域ごとに校長会、教頭会等が連携をとって情報交換を行い、自然災害(地震、台風、大雨、大雪等)とそれに伴う交通機関への影響などを勘案して迅速かつ適切な対応ができるよう鋭意、努力している。【通年】 ・全国高等学校長協会総会・研究協議会において、東日本大震災や熊本地震への対応についての研究発表や討議を実施している。【5月】
愛知県私学協会	大成中学・高等学校 至学館高等学校 金城学院中学校・高等学校	・防災訓練を実施(中学・高校合同)(消火訓練実施・避難経路確認)【毎年(5月・9月)】 ・災害時への対応としてかんぱん、水の備蓄をしている。【3年に1回】 ・書棚の転倒防止固定:前年度も図書室の書棚を固定し、図書室においては耐震作業をほぼ終えている。今年度も書棚を購入する計画があり、それも固定する予定をしている。【書棚購入時】 ・震災教育:東日本大震災のDVDを3週にわたり視聴し、課題、感想をプリントにまとめアクティブラーニング形式で考えさせる。【平成28年9月27日～10月27日】 ・防災教育:震災から学んだことをもとに防災・減災を考え、避難所運営ゲームと題して、自分達で考えながら、ハザードマップを作成する。【平成28年10月25日～11月17日】 ・職場巡視:地震が起こった際にけがにつながる設置物がないかどうか、労働衛生事業所委員会によって職場巡視を行い、危険な個所への家具や備品等の転倒防止策を行った。【毎月1回】 ・安否確認システム活用訓練:「きずなネット」を使い、安否確認のアドレスを保護者に通知する。保護者は携帯電話またはコンピュータからアクセスして、安否情報を報告する訓練を行った。【5月9日】 ・災害備蓄品の納品と寄付:非常食「救缶鳥」と保存水を、新入生用に保管している。同時に、卒業する生

<p>享栄高等学校</p>		<p>徒は救缶鳥にメッセージを記入し、日本飢餓対策機構を通じて救缶鳥と保存水を寄付した。【7月21日】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震・火災を想定した初動訓練と、全校生徒が隣接公園まで避難する訓練を行った。同時に、対策本部を設置し、安全確認や生徒誘導など教職員の対応訓練も行った。今年度は新校舎完成が年末に控えている。秋の避難訓練は例年の開催時期から延期し、新校舎へ引越しをした1月以降に実施を予定している。 <p>【5月9日】【11月中を予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生帰宅支援キットの購入と保管【4月】 ・緊急時の栄養補給ドリンク（2種）の入れ替購入【7月・11月】 ・防災訓練の実施【9月・3月】
<p>菊華高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・1年生を対象に本校の災害時対応方法の説明確認【7月】 ・避難訓練の実施【年2回】 ・防災用品の備蓄：新入生に防災キット・グッズの購入
<p>愛知産業大学工業高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・キャスター付家具の転倒防止止具を設置。【5月】 ・災害備蓄品：入学生及び新任教職員分の非常食料（3日分）を購入し備蓄。3年間保管。【4月】 ・避難訓練：「あいちシェイクアウト」を取り入れた訓練を実施。【9月】 ・心肺蘇生法実習：毎年、3年生を対象に訓練用ダミー（学校所有）を使用しAED講習を教科授業で実施。【12月】 ・防災マニュアル：防災マニュアル「危機管理」を策定し周知徹底を図っている。【毎年度】 ・生徒手帳：東海地震及び特別警報への対応について掲載。【毎年度】 ・火災を想定しての避難訓練を全校生徒、全教職員で実施した。【4月27日】 ・東海・東南海地震を想定して抜きうち型防災訓練を実施し、終了後振り返りシートで今後の課題について考えさせた。（全校生徒・全教職員で参加）【11月2日】
<p>星城高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練：地震を想定し、全員机の下に身を伏せ安全を確保するとともに、グラウンドへの避難を行う。【9月1日】 ・防災グッズの購入、備蓄：生徒及び教職員の非常食の備蓄。【毎年度】 ・防災マニュアル：学校防災マニュアルの周知徹底【毎年度】 ・安全点検：危険箇所や避難経路を毎月点検【毎年度】
<p>修文女子高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・防災グッズの購入、備蓄：生徒及び教職員の非常食の備蓄。【毎年度】 ・防災マニュアル：学校防災マニュアルの周知徹底【毎年度】 ・安全点検：危険箇所や避難経路を毎月点検【毎年度】
<p>愛知黎明高等学校</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生は防災グッズ（飲料水、非常食、ブランケット）を購入。【4月】 2. 第1回防災、避難訓練を実施。（全校生徒対象） <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練・避難経路確認・防災備品の確認 ・絆ネットを使い保護者への安否確認メールの送信・その他防災マニュアル（冊子）を使つての講話、HRの実施。【9月1日】 3. 緊急地震速報の防災訓練を実施。（全校生徒対象） <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練・避難経路確認・教職員の行動訓練・絆ネットを使い保護者への安否確認メールの送信・その他防災マニュアル（冊子）を使つての講話、HRの実施。【11月4日】 4. 防災教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学園祭での「海部防災リーダー会」による防災減災展示、講座を実施。（一般にも公開）【10月1日】 ・NPO 法人愛知西部防災ボランティアコーディネーターネットワーク代表の東嶋とも子氏による防災講話。 ・命を守る基本的な知識と行動 ・簡易避難グッズづくり【10月12日】 ・「海部防災リーダー会」による「防災、減災講座」を実施。（予定）＜一般にも公開＞【11月13日】 <p><推進テーマ以外の取組事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新入生に学校防災マニュアル（冊子）の配布。 2. 海部南部消防署と連携した生徒向け心肺蘇生法講習会の実施。参加生徒：24名【7月14日】 ※教職員向けは3学期に実施予定。 3. 防災boxの設置 <ul style="list-style-type: none"> ・地震時地域住民等が本校校舎へ避難するための鍵の開閉システム。
<p>愛知啓成高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・転倒防止対策：校舎内の家具書庫等に転倒防止器具を設置。【平成18年度～】 ・避難訓練の実施：地震・火災を想定しての校舎外への安全な避難と消防隊員からの講評。【毎年度】 ・災害時の備蓄品の確保：生徒及び教職員の非常食と防寒シートを常備。【毎年度】 ・生徒帰宅方法及び避難場所確認：東海地震予知情報発令時の生徒帰宅方法及び避難場所の把握。【毎年度】
<p>名古屋大谷高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施：本年度は雨天だったため災害への備えをDVD視聴にて確認。【4月28日】 ・新入生分の非常食、飲料水を保護者会費にて購入、備蓄。【4月】
<p>名古屋中学校・高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内の家具書庫等に転倒防止器具を設置。【随時】 ・中学高校減災チームによる全校生徒への提言。（避難訓練結果を踏まえてのプレゼンテーション）
<p>同朋高校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・被災者手記を読む。：3年次現代文の授業において高校生の被災者の手記を読む。 ・防災グッズの購入と備蓄：新入生の家庭に防災グッズを購入してもらい、学校にて保管し、卒業時に返却する。 ・新1年生用に防災グッズを購入。3学年とも倉庫に保管。【4月初旬】
<p>東海学園高等学校</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・被災者手記を読む。：3年次現代文の授業において高校生の被災者の手記を読む。 ・防災グッズの購入と備蓄：新入生の家庭に防災グッズを購入してもらい、学校にて保管し、卒業時に返却する。 ・新1年生用に防災グッズを購入。3学年とも倉庫に保管。【4月初旬】

	<p>東邦高等学校</p> <p>清林館高校</p> <p>滝中学校・高等学校</p> <p>愛知産業大学三河高等学校</p> <p>桜丘高等学校</p> <p>南山国際高等学校・中学校</p> <p>岡崎城西高等学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の確認。HR時に担任が引率する。【4月9日】 ・避難訓練【9月1日】 ・昨年度の取組と同様。 ・防災に関する講演会の実施（全校生徒対象）：世界一受けたい防災教室～防災・減災を「わかる」から「できる」へ 講師：岐阜大学教授 高木朗義先生【9月8日】 ・避難訓練の実施【4月20日】 ・シェイクアウト訓練の実施【9月1日】 ・地震避難訓練：地震発生の場合の教室内での対応法と郊外への避難経路の確認【5月】 ・シェイクアウト訓練：緊急地震速報発令の際の対応法の確認【11月】 ・新入生と保護者へ「緊急時の対応について」の案内を高校生活の手引きに掲載、配布し周知した。【4月】 ・防災訓練の実施：三河中学校・高等学校合同で実施し、生徒職員の意識の高揚を図った。【5月】 ・新入生に帰宅支援キット購入・保管した。 ・防災訓練：地震が発生したことを想定した避難訓練、災害に対する知識や防災意識の向上を図るための講演会の開催。 ・非常食貯蔵：入学時～卒業時保管、その他防災グッズを購入し防災倉庫にて備蓄。 ・転倒の恐れのある書庫・棚などの確認を実施【適宜】 ○防災訓練の実施【5月・11月】 ・避難経路の周知徹底 ・災害発生時の基本行動の理解と安全迅速な避難行動を理解 ・放課中に事前周知なしで実施することで、実践的な避難行動を理解する。 ・NTT 災害用伝言ダイヤルの体験利用 等 ○生徒用ハンドブックに「大規模地震に備えて」「火災・地震などの時の避難について」を掲載 ○危険個所及び防災経路の点検【適宜】 ○図書の落下防止対策として、棚に落下防止テープ貼付を実施【適宜】 ○AED講習会の実施【適宜】 ○窓ガラスに飛散防止フィルムを貼付 ・避難訓練（事前連絡・HR時間利用）【5月27日】・避難訓練（授業時間中）【11月4日】 ・生徒手帳に「大規模地震への対応」のページ【通年】 ・クラス委員に「災害対策委員」（福学級長兼務）を任命。【通年】 ・全校生徒分非常食貯蔵（入学～卒業・乾パン・水）【通年】 ・1年全クラス保健時間に救急救命について学習（AED・レサシアン人形を消防署より借用）【11月】
<p>愛知県消防協会</p> <p>愛知県婦人消防クラブ連絡協議会</p>	<p>②東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項</p> <p>北陸・中部ブロック幹部研修会の開催</p>	<p>北陸・中部ブロックの各県クラブ連絡協議会幹部研修会を開催し、総務省消防庁職員の講演を聞くとともに、日頃の防火・防災普及活動事例を披瀝し情報交換と検討を行った。</p> <p>また、熊本地震被災地の視察を行った静岡県会長からの報告を受け、多くの教訓と今後の啓発活動の参考とした。【平成28年10月27日(木)～28日(金)】</p> <p><参考></p> <p>ブロック構成県:新潟、富山、石川、福井、山梨</p> <p>静岡、岐阜、愛知</p> <p>研修参加者:105名(県外30名、県内75名)</p>
<p>愛知県社会福祉協議会</p>	<p>① 福祉関係者への周知</p> <p>② 大災害発生時の体制整備と「災害対応支援ガイドブックの普及啓発」</p> <p>③ ・福祉読本「ともに生きる」の作成・配布</p> <p>・「地域・学校・社協ですすめる福祉教育ハンドブック～共に育つ力を育む」の作成・配布</p> <p>・福祉実践教室</p> <p>・災害ボランティア活動と災害ボランティアコーディネーター養成等の講師等の派遣</p> <p>・福祉でまちづくり推進</p>	<p>① 愛知県ホームヘルパー連絡協議会主催の研修会にて、愛知県家具固定推進員による講義および関係資料を配布。【平成28年5月】</p> <p>② 十万人規模のボランティアの受け入れを可能にするため、大勢のボランティアを円滑に移動させられるような流通が確保できるよう、全国、東海北陸ブロック県社協職員等の応援協力を得て、県内6ブロック(名古屋、東・西尾張、知多、東・西三河)単位に「仮称 災害応援ボランティア中継センター」を設置してボランティアの需給調整を行うことを提案し、マニュアル化していく。【通年】</p> <p>③ ・小学生の社会福祉についての理解と関心を深めるため啓発冊子として福祉読本「ともに生きる」を作成し、配布。ボランティア活動の理解促進と啓発として、災害地で被災者を支援する災害ボランティア活動を紹介。(発行部数:93,000部・対象:県内全小学校5年生)</p> <p>・地域・社協・学校での福祉教育推進を目的として、教員のための福祉教育ハンドブックを作成し、配布。「防災・減災教育としてのまちづくりの学習プログラム」を提案。(発行部数:5,000部)</p> <p>(対象:名古屋市を除く全小学校教諭と関係者)【通年】</p> <p>・県内の小・中・高、専門学校等の総合学習の授業等の一環として、市町村社協と協働で実施。一部プログラムの中で災害への備えや防災・減災などの内容を開催。</p> <p>・市町村や市町村社協、町内会やボランティア団体等が開催する、災害ボランティア養成講座や災害ボランティアコーディネーター養成講座へ講師の派遣や関係資材等の提供。</p> <p>・県内市町村社協が地域の実情に応じた、先駆的な取組みを推進するため、災害対応や被災者支援と目的とする事業に対し助成を行う。</p>

	<p>事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会貢献活動推進セミナー 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、「南海トラフ地震に負けない強靱なまちづくりを目指して」をテーマに、想定される大災害に備えて、それぞれの立場から、日頃からどのような対応を行うべきか、「災害対応」の視点から持続可能な福祉社会を目指して、社会貢献活動を考えるセミナーを開催。【平成28年12月(予定)】
愛知県民生委員児童委員連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・関係資料を市町村民児協へ提供 ・災害時要援護者支援活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発チラシ等を配付【通年】 ・全国民生委員児童委員連合会「民生委員・児童委員による災害時要援護者支援活動に関する指針【第2版】」及び「災害に備える 民生委員・児童委員活動ハンドブック」に基づき、災害時要援護者支援活動について県内市町村民生委員児童委員協議会並びに地区民生委員児童委員協議会とともに推進を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ○各地区民生委員児童委員協議会での取り組み ・災害時要援護者のリスト並びに災害福祉マップの作成(更新) ・関係機関・団体との連携、協働体制の強化【通年】
愛知県地域婦人団体連絡会議	<ol style="list-style-type: none"> ① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ② 東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 ③ 推進テーマ以外の取組事項 	<ol style="list-style-type: none"> ① 理事会、役員会等を通して、常に情報交換等をしている。【通年】 ② 全地婦連を通して、熊本地震の義援金を送った。熊本地震の婦人会より当時の報告と合わせて地元新聞社がまとめた1カ月の記録を送付いただき、当時の様子を加盟団体全体で活かせるよう閲覧した。【4月～6月】 ③ 愛知県女性総合センター ウィルホールに於いて、活動事例発表大会を開催し、加盟団体が実施した地域防災に関わる活動等を発表し、加盟団体を始め、一般の参加者と情報を共有し、啓発する。【平成29年2月15日(水)】
愛知県青少年団体連絡協議会	<ol style="list-style-type: none"> ① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ② 東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 ③ 推進テーマ以外の取組事項 	<ol style="list-style-type: none"> ① 9月例会時、「家具等転倒防止」の必要性を説明し、実施済家庭の調査をしたところ、12会員のうち、対策済みは1軒のみであったが、11月例会時は3軒に増加していた。【9月、11月】 ② 9月例会時、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されているので、各会員団体において、備えの必要性を周知徹底する様に依頼した。【9月】 ③ 愛知県よりの各種チラシを会員に対して配布し、各会員団体において、周知徹底を図っている。【随時】
(公財)愛知県老人クラブ連合会	<ol style="list-style-type: none"> ③ 推進テーマ以外の取組事項 <p>第51回愛知県老人福祉大会での周知・宣言・決議</p>	<p>防災の取組について、大会宣言、大会決議で掲げ、採択した。【平成28年8月】</p>
(公財)愛知県国際交流協会	<ol style="list-style-type: none"> ① 多言語情報翻訳システムの改修 ② ラジオ放送による外国人向け情報提供 	<ol style="list-style-type: none"> ① 防災情報等のテンプレート文書をウェブ上で多言語に翻訳可能なシステムを改修中(アドレス http://tagengo.asia/)【27年度】 <ul style="list-style-type: none"> ※テンプレート文章に一部追加・修正やフィリピン語の追加などを行う。 ② 外国人県民向けにFM放送を通じて多言語で防災関連情報を提供【随時】
日本労働組合総連合会愛知県連合会	<ol style="list-style-type: none"> ① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ② 東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 	<ol style="list-style-type: none"> ① 家具固定推進検討会の会議に出席し、その後機関会議において、資料の配布及び啓蒙活動を実施した。【11/8、12/17、7/1の3回の会議出席し、その直近の機関会議で報告】 ② 愛知県中央メーデー時、連合仙台の方に来て頂き、「東日本大震災を風化させない取り組み」について、特別報告をして頂いた。来場者には防災でも使用出来るグッズ(ミニトーチライト)を配付した。中央メーデー後各地域協議会によっては、東北物産展を開催した。また、街宣行動時に、熊本地震に対する、緊急カンパを実施した。【4/24以降に随地域によっては物産展を開催した。5月からの街宣行動で「熊本地震カンパ」を4回実施した。】
愛知県生活協同組合連合会	<ol style="list-style-type: none"> ① 推進テーマ「家具や書庫等の転倒防止」に係る取組事項 ② 東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 ③ 推進テーマ以外の取組事項 	<ol style="list-style-type: none"> ① 防災委員会の委員25名(県内生協で組織する)が、名古屋大学減災館にて福和先生による講義を受講し、転倒防止措置の重要性を学ぶ。【平成28年7月6日】 ② <ul style="list-style-type: none"> ・防災幹事会で各生協の支援状況報告を受け情報の共有化。(熊本地震中心)【年5回開催】 ・愛知県防災訓練会場で生協の支援状況をパネル写真等で紹介。(東日本、熊本の被災地支援)【平成28年7月28日】 ③ <ul style="list-style-type: none"> ・愛知県、岡崎市合同防災訓練参加、緊急支援物資輸送、搬入。(岡崎市中心総合公園)【平成28年7月28日】 ・日本生協連の主催する学習会への参加。(都府県連情報交流会)【随時】 ・MCA無線送受信訓練の実施(日本生協連⇔愛知県生協連⇔4生協)※BCPを目的【年5回開催】 ・熊本地震支援緊急募金の呼びかけ。愛知県生協連含む6生協の募金実績4,189,701円(BCPを目的)【熊本地震支援】
認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード	<ol style="list-style-type: none"> ④ 東日本大震災・熊本地震を踏まえた取組事項 <ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震支援活動報告会の実施 ⑤ 推進テーマ以外の取組事項 <ul style="list-style-type: none"> ・三遠南信災害ボランティア交流学習会 ・災害時のための市民セクター対応協議会 ・子ども向け防災イベント 	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本地震被災地の現状を伝えるとともに、RSYの熊本での支援活動の報告。【平成28年6月3、25日11月2日実施済み】【平成29年3月(予定)】 ・浜松市、湖西市、豊橋市、豊川市、飯田市、名古屋市の防災団体が県域を超えて毎年交流/勉強会を開催しているが、今年度は、名古屋市の団体がホストで開催した。子ども向け防災啓発メニューを披露/紹介した。 ・平常時は、防災以外の市民活動をしている団体間のネットワーク化と各団体の取り組みの情報交換の場作り。今年度より、開始。【平成28年10月～(月1回程度)】 ・ショッピングモールやボートレース場など、子ども、家族連れが集まる場所で、防災すごろくや非常用トイレ紹介などをスタンプラリー形式で行った。【平成28年7月30、31日】【平成28年11月20日】

2. 他団体との連携取組事例

団体名	取組内容
愛知県防災局	<ul style="list-style-type: none"> ・あいち防災協働社会推進協議会と、防災啓発イベントであるあいち防災協働社会推進大会(あいち防災フェスタ)の開催。【28年11月】 ・常滑市と共催し、自主防災活動の活性化を図るため、自主防災組織のリーダー等を対象に研修会を実施。【28年11月】 ・稲沢市と共催し、ボランティア活動の重要性や認識を深めるための防災とボランティア週間講演会を開催予定。【29年1月】
名古屋市防災危機管理局	<ul style="list-style-type: none"> ・各区に組織されている16の災害ボランティア団体と連携した避難所開設・運営訓練や宿泊型訓練などの実施 ・地震及び津波による被害を軽減するため、地域が主体となって取り組む、地域の特性に応じた避難行動計画の策定作業の支援 ・避難行動要支援者名簿を区役所から地域に提供する仕組みを活用し、安否の確認方法、避難訓練などを、地域で事前に話し合っ決めておく、「助け合いの仕組みづくり」を推進
(一社)中部経済連合会	<p>様々な検討会等に委員・構成員として参加し他団体等との連携を図っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南海トラフ地震対策中部圏戦略会議構成員(事務局:中部地方整備局企画部) ・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会委員(事務局:中部地方整備局河川部) ・東海地域安心・安全共通コモンズ推進連絡会(事務局:東海総合通信局) ・減災連携研究センター社会連携推進会議委員(事務局:名古屋大学) ・大規模災害時の廃棄物処理に関する連絡会委員(事務局:中部地方環境事務所)他
愛知県商工会議所連合会(名古屋商工会議所)	<ul style="list-style-type: none"> ・「防災・減災カレッジ」を開催。企業向けの効果的なPRを実施 http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1605060003 http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1605110004 ・愛知県、名古屋大学などととも「あいちBCP講習会」を開催 http://www.nagoya-cci.or.jp/event/eventdisp.php?event_id=1608260003 ・愛知工業大学が中心となり、運営する「あいぼう会」に参画し、地元企業と防災にかんする情報交換や視察を実施。 http://dprec.aitech.ac.jp/aibou/ ・会員中小企業向けに名商安否確認アプリケーションを提供 http://www.nagoya-cci.or.jp/keiei/anpi_application.html ・様々な研究会・検討会等に委員・構成員として参加し他団体等との連携を図っている。 ・名古屋商工会議所ビルのテナント企業とともに防災訓練を定期実施している。
愛知県商工会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・本会が入居する愛知県産業労働センターにおいて、入居団体で「共同防火防災管理協議会」を組織しており、4月15日に防災訓練を実施。
(公社)日本青年会議所東海地区愛知ブロック協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知ブロック協議会として、「南海トラフ巨大地震等に向けた市民セクターによる対応協議会」の会員となり、常時から市民セクターとの情報交換体制を強化し有事に備えることとしている。
(公社)愛知建築士会	<ul style="list-style-type: none"> ・地元市町における総合防災訓練に該当支部が参加協力している。 ・建築士会や地元市町村において、会員による一般市民向けの建築相談を実施している。 ・木造住宅の耐震診断業務を地元市町村から受託し実施している。 ・被災後の住宅や避難所の応急危険度判定の実施について、地元市町村と順次協定を締結している。 ・今後、被災後の応急仮設住宅の建設に対する支援がどの程度可能か調整が必要。
瀬戸防火防災協会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・河村電器産業株式会社 本地工場が敷地を開放し、会員である本地自治会山の田町内会と合同で防災訓練を開催する。【平成28年11月27日】
あま市自主防災会	<ul style="list-style-type: none"> ・各自自主防災会の自主防災訓練において、防災ボランティア団体である「あま市防災ネット」による指導の下、訓練を実施する。今年度は、市内で41回の訓練を実施又は実施予定。
大府市自主防災会	<ol style="list-style-type: none"> ① 災害対策支部総点検 <ul style="list-style-type: none"> ・市内10自治区ごとに、市職員・自主防災会の小中学校教員・民生委員等と災害時の要注意箇所の巡回・確認、防災倉庫の資機材の確認。【毎年5月】 ② 地域総ぐるみ防災訓練 <ul style="list-style-type: none"> ・市主催の「地域総ぐるみ防災訓練」に参加。【毎年8月】 ③ ぼうさい体験ラリー <ul style="list-style-type: none"> ・小学生とその親子を対象に、避難所運営についてスタンプラリー形式で学ぶ「ぼうさい体験ラリー」を実施。【毎年11月】 ④ おおぶ防災大学 <ul style="list-style-type: none"> ・市の実施する地域防災リーダー養成講座「おおぶ防災大学」を受講。【昨年度より開始。5月～1月全4回】
安城市自主防災組織連絡協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル地区とテーマを設定して「自主防災組織支援事業」を実施。モデル地区の自主防災組織、市、社会福祉協議会、NPOが連携してテーマに沿った内容(避難所開設・運営等)についてワークショップや講演会を開催するとともに、避難所開設・運営等の訓練を実施する。 ・社会福祉協議会、NPO、ボランティア団体と連携して、市内の中学生を対象とした「中学生防災隊防災教室」を開催。NPO及びボランティア団体が講師となって防災に関する講話、応急手当及び搬送訓練、非常食作りなどを行う。各中学校区の自主防災組織にも参加を依頼し、顔の見える関係づくりを行う。 ・大規模災害時における産官学民の連携の手法などについて研究することを目的として発足した「安城市減災まちづくり研究会」に参加。今後の各参加団体での取り組みや連携などについて協議を行った。
豊川市自主防災会連絡協議会(豊川市)	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区での防災訓練の際に学校等と連携し、避難所の開設・運営訓練を実施している。
愛知県小中学校長会	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の防災訓練だけでなく、地域共同体としての防災訓練防災訓練に、児童生徒を積極的に参加させている。そして、その機会を通して、避難場所の確認、避難方法、避難ルート、避難時の対応と留意点等の知識や情報の共有化を図っている。 ・平成25年度、県校長会の教育課題特別委員会で「学校における防災体制の整備・充実に関する研究」を冊子にまとめた。また、福祉安全委員会で学校生活における安全教育・防災対策に関する研究を推進している。それらの成果を生かして、子どもの命を守る校長としての見識を高めていきたい。 ・東日本大地震を教訓とすると共に、校長会研修で学んだことを生かして、防災意識・安全意識高揚のための家庭内での確認、地域住民としての確認の機会の設定を図りたい。

<p>愛知県公立高等学校長会</p>	<p>校長会として地域と連携して学校の防災対策の整備を進めてきたが、東日本大震災や熊本地震を踏えて、活動をさらに深化させていきたい。</p> <p>① 名古屋大学と連携して、「高校生防災セミナー」に参加し、学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーを育成している。参加した生徒を中心に校内で啓発活動を行うとともに、地域の幼稚園、保育園、小学校などへ「出前講座」を行っている。</p> <p>② 地域の市町村と連携し、避難所の開設、運営等の打ち合わせを行い、避難所の開設、運営の訓練を実施している。</p> <p>③ 学校単独の防災訓練に加え、地域の防災訓練に教職員や生徒が参加し、避難場所、避難方法などを確認している。また、消防署員の方を講師として心肺蘇生、AED講習会などを実施している。</p> <p>③ 各学校では、地域の団体等との連携を図りながら、ホームルーム活動や関係教科など学校活動全体をとおして系統的に防災教育を推進している。県立海翔高校に環境防災コースが設置されているので、以下に事例を紹介する。</p> <p>【県立海翔高等学校の事例】</p> <p>●学校全体の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○講習会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・心肺蘇生・AED講習会（海部南部消防署） ○小学校の避難訓練のサポート <ul style="list-style-type: none"> ・近隣小学校が実施する本校への避難訓練への協力（弥富市立十四山西部小学校） ○防災教育週間 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての教員が教科の如何にかかわらず防災の視点を踏まえた授業の実施 <p>●環境防災コースの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○防災に係る聴講授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・防災に関する講演に市民を招へいし、生徒とともに協議（あいち防災リーダー会等） ○防災ジョブシャドウィングの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・普通救急救命講習の受講とともに、警防業務を体験（海部南部消防組合） ○外部団体が主催するセミナー等への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・高校生防災セミナー（県教育委員会健康学習課） ・総合防災展（中部ライフガードTEC2016） ・防災教育施設（名古屋市港防災センター） ・木曾川河川堤防管理工事見学（国土交通省） ・弥富市内の災害に関する史跡等を訪ねる防災フィールドワーク（弥富市） ・中高生を対象とする防災ボランティアコーディネーター養成講座（弥富市） ○出前授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の小学生に災害に関する授業の実施（弥富市立十四山西部小学校） ○愛知県・弥富市総合防災訓練、海部地方総合防災訓練への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンター設置訓練に参加し、模擬避難所運営に協力（弥富市） ○文化祭での発表 <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省等から招へいした災害対策車両や東日本大震災のパネルを展示 ○防災に関する啓発教材の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・防災啓発ソングを制作し、イベント等で披露（日進市立竹の山小学校 三浦教諭） <p>●PTAの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文化祭への参加 <ul style="list-style-type: none"> ・豚汁の炊き出し訓練を実施し、来場者に無料配布 ○研修旅行の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・防災に係る研修施設の見学（岐阜県根尾谷地震断層観察館・体験館） <p>※取組の詳細については、県立海翔高等学校ホームページをご覧ください。</p>
<p>愛知県私学協会</p>	<p>○大成中学校・高等学校 災害時には、グラウンドや体育館を一時避難場所として提供。 非常食（カンパン・飲料水）の常置。 今後、一宮市と災害時における協力体制に関する協定を結んでいきたい。</p> <p>○愛知高等学校 愛知高等学校の位置する光が丘自治区ならびに名古屋市千種区役所と協議し、名古屋市地域防災計画に基づく避難所として届出を行い指定されました。災害発生時には近隣住民のための避難所としての役割を担うこととなります。</p> <p>○愛知工業大学名電高等学校 「学園全体防災訓練の実施」：名古屋電気学園の設置校4校（愛知工業大学、愛知工業大学名電高等学校、愛知工業大学附属中学校、愛知工業大学情報電子専門学校）で同時に実施。訓練内容は、第4限の授業時間を用い、地震第一波への対応（退避行動）、全校生徒の指定避難場所への移動及び安全確認（避難訓練）を行った。</p> <p>○星城高等学校 本校を拠点として豊明市及び関連諸機関と連携して防災フェスタを実施予定。豊明市防災講演会もその日時に開催予定。【11月18日】</p> <p>○愛知黎明高等学校</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護科実習病院先（済衆館病院）での避難訓練に看護科2年生が参加。 2. 愛知県、弥富市津波・地震防災訓練への参加。（看護科3年生） 3. 地元地域防災訓練への協力。（学校開放）

	<ul style="list-style-type: none"> ・大藤保育園の避難先としての学校開放と園児対応。 ・近隣地域（消防団第9分団による）避難訓練。 <p>4. 学内の自主防災組織を動かしながら、生徒を中心として防災訓練を実施。</p> <p>5. 今後も「海部防災リーダー会」と連携を深めるとともに、学校行事等に「防災、減災講座」を引き続き開講していき、授業と連結しながらさらに多くの生徒の防災意識向上に取り組んでいる。</p> <p>○名古屋中学校・高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋中高減災チーム主催の宿泊防災訓練：東区役所、砂田橋地区居住者、名古屋市工芸高校教員・生徒、名古屋市消防局、防災のNPOの方々と共に。 (名古屋中学校・高等学校が会場)【7月】 <p>○至学館高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一泊避難所体験・炊き出し体験に参加：避難所の設営訓練・児童の指導・炊き出し・年配者のお世話・食料配布・就寝訓練【9月24日～25日】 ※一泊二日で避難所体験及び炊き出し体験を行った。児童の指導や周りの人達と協力することで避難所運営がとても大変で、若者の力が不可欠なものであると実感できる体験となった。 <p>○誠信高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扶桑町と風水害時における避難所等施設利用に関する協定書を結んでおり、体育館、武道館、グラウンドを避難場所として提供することになっている。 <p>○岡崎城西高等学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡崎市と「災害時における緊急時協力避難施設の使用に関する協定」を結ぶ (H26～) ・「矢作北学区総合防災訓練」に毎年参加【本年度：10月30日】
<p>愛知県地域婦人団体連絡協議会</p>	<p><u>尾張旭市地域婦人団体連絡協議会</u> 「非常時の食を支える ～今こそ婦人会の力を！～」と題し、「地域の方々や小中学生と一緒に防災を考える活動は続けたい！」との思いで、婦人会が一番得意としている「食」の分野を取り上げ、勉強と実践を進めた。</p> <p><u>岩倉市婦人会</u> 「地域防災訓練で婦人会のできることに」と題し、炊き出しの訓練への参加や新しい非常食の勉強会を開催したり、防災グッズなどを作成した。</p> <p><u>愛西市婦人会</u> 「女性の目線からできる防災グッズ作りと避難所での快適な過ごし方を考える」と題し、木曾川から地域の特徴や歴史を学び、今後起こりうる災害を予想し、必要な備えを想定した。ダンボールトレイや防災頭巾の作成、避難所でのストレス軽減の方法などを実践した。</p> <p><u>弥富市女性の会</u> 「次世代と学ぶ私たちの住む街、海拔0メートル地帯！」と題し、中学生と防災教育を実践したり、主婦の視点で防災マップの作製や体験防災教室を開催した。</p> <p><u>刈谷市婦人会連絡協議会</u> 「刈谷の昔を学び、明日に備えようー三河地震に学び、南海トラフ大地震に備え、今できることー」と題し、来るべき南海トラフ大地震に備えるためにも婦人会としてできる大切なことを学ぼうとこのテーマを設定し活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年2月15日(水)に開催される『愛知県地域婦人団体活動事例発表大会』において、上記の実践活動を発表し、他団体を始め一般の参加者にも広く情報を共有し、実践を深める。 ・<u>全国地域婦人団体連絡協議会が実施した、第64回全国地域婦人団体研究大会の分科会</u>において、「男女共同参画の視点からの防災 東日本大震災後の支援活動を通して見えたもの」と題し、元埼玉県男女共同参画推進センター事業コーディネーター平賀圭子氏の講演に参加した。決議の一つに「防災・減災の取組み」を掲げた。
<p>愛知県民生委員児童委員連盟</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員・児童委員活動「愛知県推進方策」～安心して済み続けることができる地域社会作りの推進～における活動・事業の強化方針項目に「災害時一人も見逃さない運動の推進」を位置付けており、次の7点を具体的な活動例として提示し、各単位民児協(329団体)において実践活動が図られるよう働きかけを行なっている。 <ol style="list-style-type: none"> 1 災害時要援護者のリスト作成 2 要援護者の近隣支援者の確保及びリスト作成 3 緊急時の連絡網整備 4 地域の避難所の点検、避難所までの経路踏査 5 町内会・自治会との情報交換会の開催への参画・協力 6 市町村の「災害時要援護者の避難支援ガイドライン」の検証 7 家具の転倒防止対策事業への協力
<p>(公財)愛知県国際交流協会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・東海・北陸地域の県及び政令市国際交流協会で構成する「東海北陸地域国際化協会連絡協議会」において、災害時における相互支援協定を締結しているとともに、毎年度災害対応のための訓練を実施している。(平成27年度は、「多言語支援センター設置運営訓練」を実施予定) ・今後も、災害時における支援活動を円滑に行うため、各関係機関等とのネットワークづくりを図るとともに、登録ボランティアのスキルアップに努めていく。
<p>日本労働組合総連合会愛知県連合会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防災に対し、意識付けを行う事はもちろん、防災・減災カレッジに労働組合の委員を派遣し、意識付け強化を行った。(現在81名受講) ・今年度からは、今後の受講者の選定方法を含め検討を進める。
<p>愛知県生活協同組合連合会</p>	<p>近隣の生協連(岐阜、三重、静岡)との支援体制について、さらに情報交換を深めていきたい(緊急支援物資の確保、被災地ボランティアの宿泊先確保・・・など)</p>

認定特定非営利活動 法人レスキュースト ックヤード	<ul style="list-style-type: none">・三遠南信災害ボランティア交流学習会:浜松市、湖西市、豊橋市、豊川市、飯田市、名古屋市の防災団体が県域を超えて毎年交流/勉強会を開催しているが、今年度は、名古屋市の団体がホストで開催した。子ども向け防災啓発メニューを披露/紹介した。・災害時のための市民セクター対応協議会:平常時は、防災以外の市民活動をしている団体間のネットワーク化と各団体の取り組みの情報交換の場作り。今年度より、開始。・子ども向け防災イベント:ショッピングモールやボートレース場など、子ども(家族連れ)が集まる場所で、防災すごろくや非常用トイレ紹介などをスタンプラリー形式で行った。・多文化防災ネットワーク愛知・名古屋:言語や文化国籍の違いに関わらず、災害時に助け合えるネットワークのための団体の発起人として参加。
---------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------